

# 情報整理 表現力を養う



地震や火山について調べる児童ら = 神原小学校

## 神原小 Edunetで調べ学習

パソコンは学校現場でどう活用されているのでしょうか。神原小学校(神原)でこのほど、六年生がインターネットで地震や火山について調べ、新聞にして発表するという理科の授業がありました。

児童たちは、調べる内容を事前に考え、検索サイトで解説文や写真、動画を収集。「すごい量」「教科書にない内容もある」と興味津々です。火山の仕組みを調べた橋本知佳さんは火山灰の説明を探し、複数のサイトを見比べた上でこう言いました。

「たくさん知識を手に入れたら、本当にほしいものを探す。そこが楽しい」

情報教育担当の松村久義教諭(50)は、「一方的に教わるのではなく、情報を整理し、表現できる力をつけることが必要」とねらいを説明します。

授業には、市教委の「Edunet」が活用されています。全市立学校をつなぐ光ファイバー網を生かし、検索サイトへの窓口や全学校図書室の蔵書検索を用意。地理情報システム(GIS)を取り入れ、各校が調べた「セミの生態」「ゴミ投棄」といった場所のデータも共有できます。

教諭らの参考になるよう、各校が作成した教材も集めま

## Edunetで調べ学習

した。六月には、市内の教諭が作成したドリル教材を生かし、児童がパソコンで漢字の学習ができる全国初のネットワークを利用した漢字認定制度を始めました。

ただ課題もあります。各校はパソコンの使い方を学年別に指導していますが、子どもはパソコンが自宅にあるかどうかでも習熟度が違います。松村教諭は「多様な対応をするには、一人でも多くの先生の配置が望ましいです。今後は個に応じた効果的な指導ができるよう、先生の研究・研修を深める必要があります」と指摘しています。

# 学校現場における熱心な取り組み



オンラインソフトを使って「危険なホームページ」を体験する児童たち = 瓦木小学校

## 利用時 相談する「確認

### 瓦木小 危険ホームページ体験

「怪しいホームページにはアクセスしなければいい」「でも怪しいかは、どうやって見分けるんだろう」と児童たちの間では活発な議論が交わされました。

瓦木小学校(大屋町)の六年生の授業。総合的な学習の時間で「ホームページにひそむ罠(わな)」と題した公開授業が行われました。インターネット上には危険性が高いホームページが多く存在していることを

知り、対処方法を考えてもらおうと企画。オンラインソフトを使って疑似体験しました。

画面は自然と環境のリンク集。八つのホームページにアクセスできるようになっています。うち六つは危険なホームページです。

例えば、森林を守る会のホームページでは「活動を応援する人は住所と電話番号、名前を書いてください」とあります。児童が記入し、

送信ボタンをクリックすると、「いたずら電話や注文していない商品と請求書が届きました」という結果が表示されました。

その後、児童たちは班に分かれて話し合いました。

授業の後、参加した十一人の教師が集まり、「情報モラル」について話し合いました。研究グループから、子どもに迫る危険として交通事故、不審者に加え、情報の影の部分があり、交通安全教室を開くように、ネットの安全な利用方法について授業が必要と説明がありました。また、教材にも使える体験的に学べるインターネットのサイトを参

考として紹介。著作権の問題にも触れ、「教育現場では教材として何でも大量にコピーをとるなど認識があいまいになりがち」と注意を促しました。

同校の情報教育担当の大石学教諭(38)は、「情報に振りまわれないように、これからはパソコン操作より、誤解を招かないメールの書き方などネットのエチケット教育や安全対策が重要になってくる」と話しています。

# 著作権などモラル学ぶ

## パソコン授業の新教科

### 西宮東高



岡教諭を囲んで、パソコンを見つめる生徒たち = 西宮東高校

西宮東高校(古川町)一年五組の科目「情報A」。四十人の生徒が黙々とパソコンに向かっています。授業を担当する岡沙織教諭(34)が「スキャナーで取り込んだ写真を、加工して、張り付けてください」などと生

徒に細かく指示しています。単元は「昔の自分と今の自分」。幼いころの写真をスキャナーで読み取ったデータと、現在の自分を撮影したデジタルカメラのデータを取り込みます。高まる情報社会の波に対

応しようと、カリキュラムが改編され、平成十五(二〇〇三)年に登場した新教科「情報」。生徒にとつて本格的にパソコンを用いた授業は初めてで、個人差が見受けられます。

授業はプリントを中心に進みます。開始早々に完成した漆畑孝さんは「パソコンは家でインターネットをやる程度。小学生の頃から触れていて抵抗はない」と話します。

また、「情報」では、近年著作権法違反などインターネットに関する犯罪が増えていることから、使用上のモラルも教えています。しかし、指導内容が幅広く、教科の蓄積も少ないのが現状です。

岡教諭は「生徒個々のスキルの把握は難しく、モラルと実技を両立して教えるには時間的制約がある」とする一方で、「便利なもので終わるのでなく、自分の生活にどう生かしていくかを学んでほしい」と情報教育に期待を込めます。情報教育は、これからの情報社会を生き抜く上で必要な教育であるといえそうです。